**２０２２年度事業報告**

**第１　組織体制等**

**１　業務執行組織（２０２２年４月１日現在）**

総務情報部

法人事務所

情報ステーション

情報製作センター

理

事

会

障害支援部

相談支援室ほくほく

鳥居寮

あいあい教室

らくらく

ＦＳトモニー

高齢支援部

盲養護老人ホームライトハウス朱雀

特定施設入居者生活介護事業所ライトハウス朱雀

ガイドヘルプステーションライトハウス朱雀

特別養護老人ホームライトハウス朱雀

短期入所生活介護事業所ライトハウス朱雀

デイサービスセンターライトハウス朱雀

ケアプランセンターライトハウス朱雀

施設事務所

**２　職員数（２０２２年４月１日現在）**

（単位：名）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 施設・事業所名 | 正職員 | 嘱託職員 | 臨時的雇用職員 | 合　計 |
| 法人事務所 | ６〔6.00〕 | ２〔2.00〕 | ４〔2.58〕 | １２〔10.58〕 |
| 情報ステーション | ９〔9.00〕 | ２〔1.72〕 | ２〔0.87〕 | １３〔11.59〕 |
| 情報製作センター | ２〔2.00〕 | １〔0.96〕 | ９〔5.15〕 | １２〔8.11〕 |
| 相談支援室ほくほく | ４〔4.00〕 | 1〔1.00〕 | ２〔0.74〕 | ７〔5.74〕 |
| 鳥居寮 | ６〔6.00〕 | ０〔0.00〕 | １０〔5.39〕 | １６〔11.39〕 |
| あいあい教室 | ８〔8.00〕 | ２〔1.95〕 | ４〔3.19〕 | １４〔13.14〕 |
| らくらく | ３〔3.00〕 | １〔1.00〕 | １４〔8.93〕 | １８〔12.93〕 |
| ＦＳトモニー | ５〔5.00〕 | ２〔2.00〕 | １７〔11.45〕 | ２４〔18.45〕 |
|  | （再掲）Ａ型事業所利用者 |  |  | ９〔4.89〕 | ９〔4.89〕 |
| 盲養護老人ホームライトハウス朱雀 | １７〔17.00〕 | １〔1.00〕 | １３〔6.10〕 | ３１〔24.10〕 |
| ガイドヘルプステーションライトハウス朱雀 | １〔1.00〕 | ０〔0.00〕 | ３〔1.16〕 | ４〔2.16〕 |
| 特養老人ホームライトハウス朱雀 | ３９〔39.00〕 | ３〔2.80〕 | １６〔11.34〕 | ５８〔53.14〕 |
| デイサービスセンターライトハウス朱雀  | ５〔5.00〕 | ０〔0.00〕 | ４〔2.81〕 | ９〔7.81〕 |
| ケアプランセンターライトハウス朱雀 | ３　〔3.00〕 | ０〔0.00〕 | ０〔0.00〕 | ３〔3.00〕 |
| 合　計 | １０８〔108.00〕 | １５〔14.43〕 | ９８〔59.71〕 | ２２１〔182.14〕 |

※　〔　〕内は常勤換算数を記載している。

※　ＦＳトモニーには、就労継続支援Ａ型事業所の利用者を含む。

**第２　法人の実施事業（２０２２年４月１日現在）**

**１　社会福祉事業**

**⑴　第１種社会福祉事業**

①　養護老人ホーム【盲養護老人ホームライトハウス朱雀】

②　特別養護老人ホーム【特別養護老人ホームライトハウス朱雀】

③　障害者支援施設（施設入所支援・自立訓練）【鳥居寮】

**⑵　第２種社会福祉事業**

①　障害児通所支援事業（児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援・居宅訪問型児童発達支援）【あいあい教室】

②　障害児相談支援事業【相談支援室ほくほく】

③　老人デイサービス事業【デイサービスセンターライトハウス朱雀】

④　老人短期入所事業【短期入所生活介護事業所ライトハウス朱雀】

⑤　障害福祉サービス事業（生活介護）【らくらく】

⑥　障害福祉サービス事業（就労継続支援Ａ型・就労継続支援Ｂ型）【ＦＳトモニー】

⑦　障害福祉サービス事業（同行援護事業）【ガイドヘルプステーション朱雀】

⑧　一般相談支援事業【相談支援室ほくほく】

⑨　特定相談支援事業【相談支援室ほくほく】

⑩　視聴覚障害者情報提供施設（点字図書館・点字出版所【情報ステーション・情報製作センター】

⑪　身体障害者の更生相談に応ずる事業（視覚障害者生活相談【法人事務所・相談支援室ほくほく】

⑫　身体障害者の更生相談に応ずる事業（在宅視覚障害者巡回歩行訓練）【鳥居寮】

**２　公益事業**

**⑴　地域公益事業**

①　視覚障害者日常生活用具等斡旋事業【法人事務所】

②　船岡健康長寿サロン活動支援事業【法人事務所】

③　京都ライトハウス眼科診療所経営事業【相談支援室ほくほく】

④　京都ロービジョンネットワーク構築事業【相談支援室ほくほく　他】

⑤　視覚障害者支援啓発・研修事業【法人事務所】

⑥　京都ライトハウスまつり事業【法人内実行委員会】

⑦　福祉避難所運営事業【法人全体】

⑧　京都ライトハウス貸室事業【法人事務所】

**⑵　公益事業**

①　居宅サービス事業（特定施設入居者生活介護【特定施設入居者生活介護事業所ライトハウス朱雀】

②　居宅介護支援事業【ケアプランセンターライトハウス朱雀】

③　京都市点訳奉仕員・音訳奉仕員養成事業【情報ステーション】

④　京都市障害者地域生活支援センター事業【相談支援室ほくほく】

⑤　京都市障害支援区分認定調査業務【相談支援室ほくほく】

⑥　京都府中途失明者指導訓練等事業【鳥居寮】

⑦　京都府視力障害児療育訓練事業【あいあい教室】**第３　２０２２年度主要事業の実績数値**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 施設・事業所 | 項　　　　　目 | 2022年度実績 | （参考）2021年度 |
| 総務情報部 | 情報ステーション | 点字図書 | 貸出延べ人数 | 1,642人  | 1,690人  |
| デイジー図書 | 貸出延べ人数 | 13,910人  | 14,993人  |
| 情報製作センター | 点字印刷 | 受託額 | 35,433千円 | 31,520千円 |
| 録音製作 | 受託額 | 13,731千円 | 15,269千円 |
| 障害支援部 | 相談支援室ほくほく | 相談支援室の計画作成等 | 計画作成件数 | 140件  | 116件  |
| モニタリング件数 | 251件  | 193件  |
| 鳥居寮 | 施設入所支援 | 延べ利用者数 | 1,220人  | 852人  |
| 稼働率（注1） | 26.7％  | 19.0％  |
| 機能訓練 | 延べ利用者数 | 3,740人  | 3,936人  |
| 稼働率 | 77.9％  | 82.0％  |
| あいあい教室 | 児童発達支援 | 延べ利用者数 | 1,335人  | 1,349人  |
| 稼働率 | 45.7％  | 46.5％  |
| 放課後等デイサービス | 延べ利用者数 | 2,225人  | 1,709人  |
| 稼働率 | 75.9％  | 58.7％  |
| らくらく | 生活介護 | 延べ利用者数 | 3,683人  | 3,499人  |
| 稼働率 | 75.8％  | 72.3％  |
| ＦＳトモニー | 就労継続支援Ａ型 | 延べ利用者数 | 2,212人  | 2,209人  |
| 稼働率 | 91.0％  | 75.4％  |
| 就労継続支援Ｂ型 | 延べ利用者数 | 6,223人  | 5,982人  |
| 稼働率 | 85.4％  | 82.7％  |
| 高齢支援部 | 盲養護ホーム朱雀 | 養護老人ホーム | 延べ措置者数 | 18,232人  | 18,250人  |
| 在籍率（注2） | 99.9％  | 100.0％  |
| 特定施設生活介護朱雀 | 特定施設生活介護 | 延べ利用者数 | 7,210人  | 7,017人  |
| 稼働率 | 94.8％  | 96.1％  |
| ガイドヘルプステーション朱雀 | 同行援護 | 延べ利用者数 | 1,233人  | ― |
| 稼働率 | 67.7％  | ― |
| 特養ホーム朱雀 | 特養老人ホーム | 延べ利用者数 | 22,044人  | 22,024人  |
| 稼働率 | 92.9％  | 92.8％  |
| 短期入所生活介護朱雀 | 短期入所生活介護 | 延べ利用者数 | 2,535人  | 2,809人  |
| 稼働率 | 77.2％  | 85.5％  |
| デイサービスセンター朱雀 | デイサービス | 延べ利用者数 | 4,925人  | 5,131人  |
| 稼働率 | 79.2％  | 82.5％  |
| ケアプランセンター朱雀 | ケアプラン（居宅介護支援） | 件数（月平均） | 83.3件  | 74.8件  |
| 件数（延べ件数）" | 1,000.0件 | 897.5件 |

（注1）稼働率＝延べ利用者数÷（定員×営業日数）　（注2）在籍率＝各月1日現在の措置者合計÷（定員×12月）

**第４　２０２２年度決算概況**

**１　収支状況表（資金収支計算書ベース）**

（単位：千円）

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 　 | 本部 | 施設 | あいあい | 鳥居寮 | らくらく |
| 収　入　ａ | 58,511 | 218,710 | 64,894 | 67,243 | 71,884 |
| 　 | 内部相殺後　ｂ | 30,511 | 218,710 | 63,847 | 67,111 | 71,759 |
| 支　出　ｃ | 59,031 | 229,262 | 72,035 | 68,944 | 76,569 |
| 　 | 内部相殺後　ｄ | 58,041 | 221,555 | 69,435 | 64,944 | 72,869 |
| 収支差額　ｅ＝(a－c) | △ 520 | △ 10,552 | △ 7,141 | △ 1,701 | △ 4,685 |
| 　 | 内部相殺後　ｆ＝(b－d) | △ 27,530 | △ 2,845 | △ 5,588 | 2,167 | △ 1,110 |
| 当期積立金 | 47,463 | 　 | 　 | 　 | 　 |
| 累計繰越金 | 50,098 | 128,492 | 10,071 | 28,802 | 48,926 |
| 前期収支比較 | 前期収入 | 154,462 | 232,819 | 96,943 | 79,951 | 73,824 |
| 前期収入からの増減 | △ 95,951 | △ 14,109 | △ 32,049 | △ 12,708 | △ 1,940 |
| 前期支出 | 145,898 | 230,218 | 109,498 | 79,832 | 79,150 |
| 前期支出からの増減 | △ 86,867 | △ 956 | △ 37,463 | △ 10,888 | △ 2,581 |
|  |
| 　 | トモニー | 相談支援室 | 朱雀養護 | 朱雀特養 | 合　計 |
| 収　入　ａ | 109,618 | 37,098 | 227,373 | 445,340 | 1,300,671 |
| 　 | 内部相殺後　ｂ | 109,493 | 35,561 | 227,153 | 444,829 | 1,268,974 |
| 支　出　ｃ | 109,471 | 31,936 | 212,446 | 482,957 | 1,342,651 |
| 　 | 内部相殺後　ｄ | 105,571 | 30,736 | 209,846 | 477,957 | 1,310,954 |
| 収支差額　ｅ＝(a－c) | 147 | 5,162 | 14,927 | △ 37,617 | △ 41,980 |
| 　 | 内部相殺後　ｆ＝(b－d) | 3,922 | 4,825 | 17,307 | △ 33,128 | △ 41,980 |
| 当期積立金 | 541　 | 　 | 8,500 | 1,500 | 58,004 |
| 累計繰越金 | 4,690 | 49,864 | 156,319 | 30,945 | 508,207 |
| 前期収支比較 | 前期収入 | 108,846 | 35,203 | 210,386 | 445,940 | 1,438,374 |
| 前期収入からの増減 | 773 | 1,894 | 16,987 | △ 600 | △ 137,703 |
| 前期支出 | 112,820 | 30,944 | 204,949 | 461,857 | 1,455,166 |
| 前期支出からの増減 | △ 3,348 | 991 | 7,497 | 21,100 | △ 112,515 |

**２　各種積立金状況表**

（単位：千円）

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 　 | 本部 | 施設 | あいあい | 鳥居寮 | らくらく |
| 人件費積立預金 | 58,500 | 16,470 | 0 | 2,400 | 0 |
| 修繕積立預金 | 62,650 | 2,000 | 12,000 | 0 | 5,500 |
| 備品等購入積立預金 | 56,500 | 7,000 | 7,000 | 3,500 | 26,600 |
| 整備資金積立預金 | 197,442 | 30,000 | 0 | 0 | 0 |
| 移行時特別積立金 | 0 | 0 | 0 | 1,187 | 0 |
| 退職給与積立預金 | 34,699 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合 計 | 409,791 | 55,470 | 19,000 | 7,087 | 32,100 |

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 　 | トモニー | 相談支援室 | 朱雀養護 | 朱雀特養 | 合　計 |
| 人件費積立預金 | 4,884 | 0 | 1,300 | 0 | 83,554 |
| 修繕積立預金 | 0 | 1,000 | 26,000 | 4,500 | 113,650 |
| 備品等購入積立預金 | 0 | 1,000 | 0 | 8,000 | 107,600 |
| 整備資金積立預金 | 0 | 0 | 6,000 | 0 | 235,442 |
| 移行時特別積立金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,187 |
| 退職給与積立預金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 34,699 |
| 合 計 | 4,884 | 2,000 | 33,300 | 12,500 | 576,132 |

**３　決算の概況**

○　2022年度の決算は、総収入が対前年度比１億3,770万円減の13億67万円、総支出が対前年度比1億1,251万円減の13億4,265万円で、収支は4,198万円の赤字となりました。収入の大幅減の要因は、経常経費寄付金収入6,262万円減、京都市補助金の大幅削減による経常経費補助金3,580万円減、積立資産取崩収入4,820万円減などによるものです。一方、支出の大幅減の要因は、固定資産取得支出4,921万円減、積立資産支出4,720万円減などによるものです。

※　内部相殺後でみた場合は、総収入12億6,897万円、総支出13億1,095万円、収支は4,198万円の赤字となります。

○　「事業活動による収支」では、収入においては、新型コロナウイルスの感染拡大の影響等で、介護保険事業収入、障害福祉サービス等事業収入が見込額を下回りましたが、出版事業収入、用具販売事業収入、経常経費補助金が見込額を上回ったことに加え、1千万円を超える高額の寄付をいただいたことなどにより、予算額を上回る12億6,079万円となりました。なお、緊急避難的対応として予定していた人件費積立金1,647万円の取り崩しは、実施を見送りました。一方、支出においては、電気・ガス料金の高騰で水道光熱水費が増加したことなどにより、事業費支出は見込額を上回りましたが、人件費支出や事務費支出が見込額を下回ったことなどにより、予算額を下回る11億9,553万円となりました。これにより、事業活動資金収支としては6,526万円の黒字となっています。

○　以下は、拠点ごとの決算概況です。

⑴　本部拠点区分

○　収入が対前年度比9,595万円減の5,851万円、支出が対前年度比8,686万円減の5,903万円、収支は52万円の赤字となりました。

　　収入の大幅減の要因は、2021年度は、遺贈による7千万円を超える高額の寄附があったことや、あいあい教室の放課後等デイサービス事業の新施設完成により、積立資産3,000万円の取崩しを行ったことなどによるものです。

※　内部相殺後でみた場合は、収入3,051万円、支出5,804万円、収支は2,753万円の赤字となります。

○　「事業活動による収支」では、遺贈による1千万円を超える高額の寄付をいただき、収入が予算額を1,530万円上回りました。

○　「その他の活動による収支」では、その高額の寄付全額を将来の整備に備える資金に充てることとし、予算額を1,946万円上回る4,746万円の積立てを行いました。

⑵　ライトハウス施設拠点区分

○　収入が対前年度比1,410万円減の2億1,871万円、支出が対前年度比95万円減の2億2,926万円、収支は1,055万円の赤字となりました。

　　収入減の主な要因は、京都市からの運営補助金が3千万円削減されたことによるものです。

※　内部相殺後でみた場合は、収入2億1,871万円、支出2億2,155万円、収支は284万円の赤字となります。

○　「事業活動による収支」では、収入においては、出版事業収入が参議院選挙関連の受注で増加したことや、用具販売事業の売上が順調であったことなどにより、予算額を上回る2億1,711万円となりました。一方、支出においては、用具の仕入増により事業費支出は見込額を上回りましたが、職員の長期休務などにより結果的に人件費支出が見込額を下回ったことと、本館の不急な修繕を先送りにしたことで事務費支出が見込額を下回ったことなどにより、2億1,897万円となりました。これにより、事業活動資金収支としては186万円の赤字となっています。

⑶　あいあい教室拠点区分

○　収入が対前年度比3,204万円減の6,489万円、支出が対前年度比3,746万円減の7,203万円、収支は714万円の赤字となりました。収入・支出の大幅減の要因は、2021年度は、放課後等デイサービス事業の新施設完成により、積立資産の取崩や拠点区分間繰入金を受け入れ、固定資産取得支出を計上したことによるものです。

※　内部相殺後でみた場合は、収入6,384万円、支出6,943万円、収支差額558万円の赤字となります。

○　「事業活動による収支」では、収入においては、報酬上の加算が一部獲得できなかったことや、新型コロナウイルスの感染拡大の影響などで、障害福祉サービス等事業収入が見込額を下回ったことにより、6,296万円となりました。一方、支出においては、ほぼ予算と同額の6,838万円となりました。これにより、事業活動資金収支としては542万円の赤字となっています。

⑷　鳥居寮拠点区分

○　収入が対前年度比1,270万円減の6,724万円、支出が対前年度比1,088万円減の6,894万円、収支は170万円の赤字となりました。

※　内部相殺後でみた場合は、収入6,711万円、支出6,494万円、収支は216万円の黒字となります。

○　「事業活動による収支」では、収入においては、利用実績が低調であったため、障害福祉サービス等事業収入が見込額を下回り、6,711万円となりました。一方、支出においては、職員の欠員により結果的に人件費支出が見込額を下回ったことなどにより、6,481万円となりました。これにより、事業活動資金収支としては229万円の黒字となっています。

⑸　らくらく拠点区分

○　収入が対前年度比194万円減の7,188万円、支出が対前年度比258万円減の7,656万円、収支は468万円の赤字となりました。

※　内部相殺後でみた場合は、収入7,175万円、支出7,286万円、収支は110万円の赤字となります。

○　「事業活動による収支」では、収入においては、新型コロナウイルスの感染拡大の影響などで、障害福祉サービス等事業収入が見込額を下回ったことなどにより、6,745万円となりました。一方、支出においては、人件費支出が見込額を上回ったことなどにより、7,135万円となりました。これにより、事業活動資金収支としては389万円の赤字となっています。

○　「その他の活動による収支」では、送迎車両購入費用や他の備品購入費用などに充てるため、積立資産から430万円の取り崩しを行いました。

⑹　ＦＳトモニー拠点区分

○　収入が対前年度比77万円増の1億961万円、支出が対前年度比334万円減の1億947万円、収支は14万円の黒字となりました。

※　内部相殺後でみた場合は、収入1億949万円、支出1億557万円、収支は392万円の黒字となります。

○　「事業活動による収支」では、収入においては、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、障害福祉サービス等事業収入が見込額を下回ったことにより、1億949万円となりました。一方、支出においては、ほぼ予算と同額の1億419万円となりました。これにより、事業活動資金収支としては530万円の黒字となっています。

⑺　相談支援室拠点区分

○　収入が対前年度比189万円増の3,709万円、支出が対前年度比99万円増の3,193万円、収支は516万円の黒字となりました。

※　内部相殺後でみた場合は、収入3,556万円、支出3,073万円、収支は482万円の黒字となります。

○　「事業活動による収支」では、収入においては、ほぼ予算額どおりの3,556万円となりました。一方、支出においては、人件費支出が予算額を下回ったことなどにより、2,808万円となりました。これにより、事業活動資金収支としては747万円の黒字となっています。

⑻　朱雀養護拠点区分

○　収入が対前年度比1,698万円増の2億2,737万円、支出が対前年度比749万円増の2億1,244万円、収支は1,492万円の黒字となりました。

　　収入が前年度を上回っている要因は、入居者向けガイドヘルプサービスを新たに開始し、その事業収入を受け入れたことと、300万円の指定寄付をいただいたことなどによるものです。

※　内部相殺後でみた場合は、収入2億2,715万円、支出2億984万円、収支は1,730万円の黒字となります。

○　「事業活動による収支」では、収入においては、新型コロナウイルスの感染拡大の影響などで、ガイドヘルプサービスの利用者数が伸び悩み、障害福祉サービス等事業収入が見込額を下回る一方で、感染防止対策や食材費高騰対策に係る補助等で経常経費補助金が見込額を上回ったことと、寄付金収入を受け入れたことにより、2億2,575万円となりました。一方、支出においては、職員の年度途中退職などで人件費支出は予算額を下回りましたが、電気・ガス料金の高騰で水道光熱水費が増加し、事業費支出が見込額を上回ったことなどにより、1億8,641万円となりました。これにより、事業活動資金収支としては3,933万円の黒字となっています。

○　「その他の活動支出」では、京都市からの借地を返却する際の建物除却等の費用として550万円の積立を行うとともに、寄付としていただいた300万円を将来の整備資金として積み立てました。

⑼　朱雀特養拠点区分

○　収入が対前年度比60万円減の4億4,534万円、支出が対前年度比2,110万円増の4億8,295万円、収支は3,761万円の赤字となりました。

※　内部相殺後でみた場合は、収入4億4,482万円、支出4億7,795万円、収支は3,312万円の赤字となります。

○　「事業活動による収支」では、収入においては、新型コロナウイルスの感染拡大の影響などで、介護保険事業収入が見込額を下回りましたが、感染防止対策や食材費高騰対策に係る補助等で経常経費補助金が見込額を上回ったことにより、4億4,482万円となりました。一方、支出においては、職員が新型コロナウイルスの感染者や濃厚接触者に該当する事例が相次いだことにより、派遣職員や非常勤職員などの人件費支出が増加したことや、電気・ガス料金の高騰で水道光熱水費が増加し、事業費支出が見込額を上回ったことなどにより、4億4,273万円となりました。これにより、事業活動資金収支としては209万円の黒字となっています。

○　「その他の活動支出」では、京都市からの借地を返却する際の建物除却費用等の積立金として、150万円を支出しました。

**第５　２０２２年度事業計画の取組結果（概況）**

**１　社会福祉事業の推進**

**⑴　社会福祉事業の利用者確保に向けた創意工夫**

**ア　実施する社会福祉事業における利用者の確保**

〇　鳥居寮では、年度内に5名の体験入所を受け入れた。昨年8月に受け入れ予定だった１名の対象者が、意欲の低下から辞退となったが、その後も継続した関りを持つことによって、最終的には1月入所に繋がった。

〇　らくらくでは、支援学校からの見学について、保護者見学会(8名)、教員施設見学会(5名)など、積極的に受け入れた。また、支援学校からの体験実習について、2名を受け入れるとともに、東京の盲学校からも1名を受け入れたことにより、次年度の利用が確定した。

　　〇　ライトハウス朱雀ケアプランセンターでは、欠員となっていたケアマネジャーを7月から再び3人体制に戻すことができたので、地域包括支援センター等への情報提供を精力的に行った結果、ケアプラン作成件数は徐々に増加したが、目標達成には至らなかった。

また、京都市指導監査での文書指摘を受け、アセスメント記録のPC入力の徹底とケアプランセンター会議の活用等によるチェック機能の強化に取り組んだ。

　　　〇　ガイドヘルプステーション朱雀を4月に設置したが、上半期は不安定なヘルパー体制に加え、悪天候や新型コロナウイルス感染症の影響等で外出不可となる日が続いたため、稼働率は低迷した。下半期にはガイドヘルパーを安定的に確保できるようになったこともあり、稼働率は大きく向上し、盲養護入居者により利便性の高いサービスを提供できるようになった。

**イ　アウトリーチ（地域への出張）による福祉サービスの提供**

〇　鳥居寮では、月１回のサテライト事業に参加した。これまで、事業を主催する鳥居寮・洛西寮で具体的な実施内容等を決めてきたが、事前に京視協や地元団体と内容等の検討協議を行うこととし、地元の役員等が積極的に関わってもらえるような運営を進めた。

また、サテライト事業開催の5地域（宇治、京田辺、長岡京、木津川、八幡）の京視協役員が集まっての意見交換会に参加した（12月19日）。

**⑵　提供する福祉サービスの質の向上**

**ア　職員の人権意識の向上と専門知識・技術の習得**

〇　鳥居寮では、元職員による歩行訓練のスーパーバイズを継続的に行うとともに、白杖選定やオリエンテーションについて、ほくほく、京視協巡回相談と勉強会を実施した。

〇　ライトハウス朱雀では、1月12日に集合研修にて認知症ケア研修、2月9日に誤嚥性肺炎予防研修、同15日に養護主催での視覚障害者支援研修、同27日に高齢者虐待研修（外部講師）を集合研修で実施し、3月15日には看取り研修を実施しグループワークも行った。

〇　研修委員会では、京都ロービジョンネットワークの主催する研修について、積極的に法人内に周知し参加を呼び掛けた。法人の外部委員会として明確に組織規程に規定し、運営委員の増員も行なったことから、法人内で幅広く参画できる機会や気運が醸成された。

相談員向け研修（6月8日、10月5日、2月15日）では、各部署の相談員（鳥居寮・FSトモニー・あいあい・ほくほく）とネットワーク傘下の事業所の相談員とで研修を行った。

　　**イ　利用者等のニーズを踏まえた福祉サービスの改善**

　〇　情報ステーションでは、来館時の対面読書を昨年度からオンラインで実施しているが、在宅での対面読書等については、利用者へのインターネット利用環境等の状況調査やモニター体験を行ったところ、結果として、来館での実施を希望する声が多かった。今後さらに、利用者、ボランティアの意向も確認しながら、オンライン対応の検討を行うこととした。

　〇　障害支援部全体としては、ＦＳトモニーが自主点検表に基づく定期的な点検を率先して進め、9月13日に行われた京都市実地指導においても指摘は無かった。10月には3部署、12月に全部署が自主点検を完了した。あいあい教室では1月19日に実地指導が行われたが、文書指摘は無かった。

〇　鳥居寮では、新しい試みとして、習字体験（8月18日、19日、26日）、新聞紙による作品つくり（9月22日、30日）などの講座を開催した。

外出企画の半日のイベントとして、船岡山散策（11月10日）、平野神社散策（1月19日）、ボウリング（3月30日）を実施した。

　〇　あいあい教室では、評価アンケートを2月に実施し、3月にホームページに掲載した。

〇　らくらくでは、利用者個々の要望を分析し、グループに分かれてのプログラムを定例化する中で、1日3種のプログラムを提供する日を複数日設定することができるようになった。また、新型コロナウイルス感染状況を見ながら、秋の植物園訪問など外出企画も積極的に行った。

　　　〇　ライトハウス朱雀養護では、花まつり・菖蒲湯・外出散歩・棚経・夏祭りや新年会のカラオケ・外食会等の季節行事を工夫しながら再開した。新たな試みとして、ドッグセラピーや移動販売の機会を提供することができた。また,和食レストランでの外食や植物園への外出を実施し、利用者からも好評であった。

〇　ライトハウス朱雀特養では、2ユニット1グループ化推進のために、特養会議で検討を行ったうえで、早出、遅出での業務終了時に業務進行の確認等をする取組を進めた。その成果は着実に現れてきており、職員一人ひとりが2ユニット業務をこなせるようになってきている。

**ウ　業務効率化の推進**

　　　〇　ライトハウス朱雀特養では、インカム導入に向け、ユニットリーダー会議で製品のデモンストレーション（業者説明、デモ機の試用等）を実施した。ICT化の補助金は次年度が最終年度との業者からの情報もあり、次年度には導入できるように取組を進める。

**エ　法人内の連携強化によるサービスの向上**

　〇　情報ステーション・情報製作センター・鳥居寮では、岩田美津子氏（「てんやく絵本ふれあい文庫」創設、第10回鳥居伊都賞受賞）を講師に、点字普及イベントを11月17日にオンラインで開催し、鳥居寮利用者が点字読書についてのエピソード発表を行った。

〇　あいあい教室では、放課後等デイサービスの利用児が、らくらく夏祭りに参加（8月23日：4名）した。

利用児の社会性向上のための「お仕事体験」として、FSトモニー製のお弁当の館内販売（8月2日：7名、8日：8名、12日：9名）や、おやつの館内販売（8月3日：7名、5日：7名、15日：5名、18日：8名、12月26日：10名、27日：12名）を実施した。

**オ　顧客の拡大に向けた魅力ある製品づくり**

　〇　法人事務所では、後援会費納入のクレジット支払いを2023年度当初から実施できるよう、準備を整えた。製品代金のキャッシュレス決済の導入については、今後、手数料やシステム改修などのコストとキャッシュレスによるサービス向上を比較して検討を進める。

〇　情報製作センターでは、新製品として、ボディバッグを11月から販売した。また、背負い型トートバッグが、10月の「日本ライトハウス展～全国ロービジョンフェア2022」での販売や12月の「点字毎日」への記事掲載の効果もあり、好評であった。

　　　〇　ＦＳトモニーでは、積極的に優先調達推進法共同受注に応募する等、販路拡大に努めた。

（5件応募し、①②の2件が採用。③はライトハウス通信での掲載効果）

　　　　　① 京都市民生児童委員連盟　近畿ブロック会議用　「エコバッグ」130枚

　　　　　② 京都市健康長寿企画課　民生児童委員退任記念品新商品「京の防災 備える巾着」600個

　　 　③ 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構　京都支部

　 　　 第20回アビリンピック京都大会 参加記念品「京の防災 備える巾着」90個

　　　〇　ＦＳトモニーでは、次の新商品等を提案し、受注・製作を行った。

・京都市　えしかるんオリジナル一筆箋と封筒のセット

・（株）トリトーン　鉢植え入れ用の手提げ袋（オリジナルサイズ）

・由良オリーブを育てる会　オイルやお茶の詰め合わせ用の手提げ袋（オリジナルサイズ）

・（株）文化時報社　100周年記念品　オリジナル一筆箋と手提げ袋

次のような販路拡大に取り組んだ。

・はあと・フレンズストアの担当企業主催の勉強会『販路拡大や新商品開発』やZOOM会議に参加した。

・ノートルダム女子大学において、近隣施設と学校の融合事業として販売を行い、学生や先生にもFSトモニーの商品を広めることができた。

**⑶　福祉サービスの提供等における関係機関等との連携**

**ア　社会福祉事業における関係機関等との連携**

 〇　情報ステーションでは、11月2日に、京都府立盲学校高等部の読書週間の取組のひとつ「図書紹介ラジオ」で、生徒会図書係が来館され、取材、収録に応じた。

2月8日に、京都市中央図書館と読書バリアフリーに向けた意見交換会を実施した。

京都府図書館等連絡協議会（京図連協）所属の公共図書館等や盲学校と、相互貸借（協力）を実施している。利用者からの要望があれば、最寄りの図書館の利用にも繋げている。

〇　相談支援室ほくほくでは、京都ロービジョンネットワークの各構成団体と連携し、相談員研修（年3回：6月8日，10月5日，2月15日）に積極的に関わり、相談支援の質を高めるとともに、情報交換や相互の研修会などにより、関係機関との連携を図った。

個別相談では、制度の問い合わせや生活全般の課題は京視協に、具体的な用具の相談はほくほくに、京都府下からの相談は関係機関と迅速に連携して巡回相談やロービジョン相談に繋げるなど、的確に対応した。

〇　あいあい教室では、洛陽保育園との間で、紹介動画交換による交流を1回（8月）、外遊びでの交流２回（10月、3月）、手作りカードの交換による交流２回（12月、1月）を実施した。京都府立盲学校との交流会は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、実施できなかった。

〇　あいあい教室では、11月20日に、「第44回視覚障がい乳幼児研究大会」を対面とオンラインとのハイブリッド形式で開催した。基調講演、あいあい教室放課後等デイサービスの実践報告、シンポジウムなどを行った。

**イ　社会福祉事業を応援するボランティアの養成**

〇　情報ステーションでは、オンラインシステムを利用したボランティア養成講習会等として、点訳入門8回、音訳中級6回、音訳認定試験をリモート開催した。また、音訳研修会11回、点訳研修会1回をリモート開催した。

〇　鳥居寮では、iPhone訓練ボランティア向け動画を継続して作成（25本）し、youtubeに投稿することで、訓練でのサポートに役立てていただいた。

〇　あいあい教室では、大学や専門学校の館内見学の際に、職員が直接学生に話をするPRタイムを設けてもらい、あいあい教室の啓発とボランティア活動の呼びかけを行った結果、大学生7名（前期4名、後期3名）のボランティア活動への参加があった。

**⑷　ニーズに対応する社会福祉事業の創出・拡大**

**ア　就労継続支援（Ａ型）事業及び老人デイサービス事業の拡大**

〇　ＦＳトモニーでは、Ａ型事業の今年度の収支は、法人内部との連携が密であることもあり、不採算の事業はなく、安定した経営を継続できた。

3月に、新たな利用者の採用を検討し募集を行い、4名の見学者があった。

〇　ライトハウス朱雀デイサービスセンターでは、事業所内で新型コロナウイルス感染症のクラスター感染が発生したこと等もあり、上半期の稼働率が大きく低下する結果となった。

利用回数増の相談をはじめ利用者への働きかけや、送迎できる職員の充実等、定員拡大へ向けての工夫を継続して行ってきた結果、下半期には、体験利用から新規契約に繋がるケースや利用再開となるケースもあり、利用者が20人を上回る日も出てきた。

**⑸　安心・安全な福祉サービスの提供**

**ア　安全で職員の負担軽減に資する設備・機器等の導入**

〇　法人事務所では、9月から、新たな勤怠システムを並行して稼働し、操作の習熟を図るとともに稼働内容を検証した上で、10月から、新システム本格稼働により、勤怠申請のペーパーレス化を行い、業務の効率化を図った。

〇　法人事務所では、12月に本館の機械警備を導入するとともに、１月からは本館の日直等の施設管理業務を京都市シルバー人材センターへ業務委託した。

4月から、代表電話を夜間自動音声案内に切り替えることとし、法人が発行する様々な媒体で周知を行った。

**イ　災害や感染拡大などの緊急時に備えた対策の実施**

　　　〇　法人事務所では、2024年4月にBCP策定が義務化されるのを見据え、今年度は、ライトハウス朱雀が先行整備した震災編をベースにして震災対応のBCPの策定を進めた。次年度に、感染症対応を一体としたBCPとして整備する。

**２****公益事業の積極的な推進**

**⑴　視覚障害者を対象にした公益事業の実施**

〇　ライトハウス朱雀では、視覚障害者支援技術マニュアルを日本ライトハウスが主催する「視覚障害生活訓練等指導者養成課程」の研修講師時（11月1日）に活用して啓発した。朱雀第四小学校の施設見学の際（1月24日、25日）には、内容の一部を抜粋して説明を行った。

　〇　京都ロービジョンネットワークでは、見えない方・見えにくい方でお困りの方が一人でも多くロービジョンケアにつながるよう、医療機関や他の福祉団体・教育機関と連携して、紹介リーフレット「さくら」の頒布等の活動に取り組み、「さくら」約3000部配布を行った。

**⑵****府市民を対象にした地域公益事業の実施**

〇　情報ステーションでは、10月15日（鳥居篤治郎氏・京都市名誉市民表彰の日）に、Facebookに鳥居氏の自著「すてびやく」を紹介した。

鳥居氏の命日（鳥居賞授賞式）や生誕日等の記念日に合わせて実施できる取組（SNSを活用した文献の紹介や啓発の情報発信等）のほか、文献紹介についても関係者からご意見を伺った。

〇　ライトハウスまつり委員会では、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、模擬店の出店は行わず、ステージプログラムを利用者の発表に限る等、規模を縮小して10月30日に開催した。入場者は約400人であった。

**３　福祉人材の確保・定着・育成**

**⑴　福祉人材の確保・定着に向けた取組の強化**

**ア　福祉人材の確保に向けた取組の強化**

〇　あいあい教室では、大学生7名（前期4名、後期3名）のボランティアと9名の介護等体験実習生を受け入れた。

**イ　福祉人材の定着に向けた取組の強化**

〇　法人事務所では、法人全体でのワークライフバランスの推進のため、年度当初に施設ごとの超過勤務時間を配分し、経営会議において施設ごとの毎月分実績を共有するなど、その縮減に向け取組を進めてきたが、新型コロナウイルス感染症に伴う対応や職員の退職による欠員対応などで、昨年度の超過勤務実績を上回る施設があった。

　　　〇　法人事務所では、人事評価、本人意向、各施設の必要性などを総合的に判断した上で適正な職員配置に努めた。

人事評価の結果に基づく給与反映、専門職手当の創設、育児のための短時間勤務の対象者の拡大等の実施に向け、所要の規定整備を行った。

**⑵　福祉人材の育成**

**ア　福祉人材育成システムの構築**

〇　研修委員会では、年間計画作成時にバランスを考慮した計画を構築し、個別の内容については、職員意向も反映して実施に取り組んだ。

・専門性　視覚障害者情報機器の最新状況（10月3日）

・組織性　経営研修（12月27日）、新人研修（4月4日他）、階層別研修の受講促進

・社会性＆倫理性　安全運転研修（1月6日）、個人情報とコンプライアンス（2月8日）、　虐待防止研修（3月22日）など

**イ　リーダー層の育成**

〇　研修委員会では、3月に、福祉人材センターから講師を招き、管理者向け研修を実施した。

若手職員の招集については、各施設長からの推薦による上位認証を目指す検討チームを作り、今後そのメンバーを中心に、法人の抱える課題等の検討を行っていくこととした。

**４　健全経営を行う法人組織の構築**

**⑴　法人情報の積極的な発信**

**ア　法人のサービスや取組の積極的な発信**

　〇　法人事務所では、広報委員会を開催し、各施設からの情報発信の状況を確認しながら進捗管理を行った。

・Facebook、YouTubeに加え、Instagramによる発信を開始

　 　　(フォロワー数 Facebook 570人、Instagram 105人)

・Twitterを含むSNSの活用による発信に向けた研修を実施　(8月24日、2月7日)

　　〇　ＦＳトモニーでは、利用者のみに配布していた紙媒体の「トモニーだより」から、SNSや動画共有サービスを活用することにより、より効果的で効率的な広報活動を展開する検討を進め、Instagramの運用を2023年度から開始することとした。

　　　　※投稿テーマ…素材を再利用した自主製品　商品を作る過程や企画の前段階も投稿

　　　　※ターゲット…SDGsへの関心から問い合わせが増えている「企業」

**⑵　信頼性の高い安定した組織運営の確立**

**ア　コンプライアンス（法令等遵守）の徹底**

　〇　研修委員会では、外部講師による研修として、「個人情報の秘密保持、セキュリティ問題」（2月8日）、「高齢者虐待」（2月27日）を開催した。

新人研修では、コンプライアンス研修を必須科目とし、対象者に受講の徹底を図った。

**イ　組織統治（ガバナンス）の確立**

〇　法人事務所では、12月に運営協議会を開催し、委員からいただいた施設の利用やサービスの提供などの様々な意見を日々の法人運営に可能な限り反映させるように努めている。

**⑶****健全な財政規律の確立**

**ア　経営状況の分析と適切な資金の運用・積立て**

〇　法人事務所では、後援会費納入のクレジット支払いを2023年度当初から実施できるよう、準備を整えた。クラウドファンディングについては、次年度、その具体化に向け検討を進めていく。

**イ　自治体補助制度等の活用と自治体等からの事業受託**

〇　情報ステーションでは、2月6日に京都府、3月14日に京都市に対し、情報バリアフリーへの理解を求めると共に予算要望を行った。

**ウ　京都ライトハウス後援会からの支援の確保**

〇　法人事務所では、2023年度当初から後援会費のクレジット払いを実施するため、クレジット決済代行業者と契約し、準備作業を行った。

　「後援会だより」の送付について、これまでは、当該年度の会費納付者のみを送付対象としていたが、当該年度の会費は未納付でも、前年度の会費を納付していれば送付対象とするよう取り扱いを見直し、会員のつなぎ止めを図った。